

世田谷区では、鉄道駅からの距離が「500m」、バス停からの距離が「200m」以遠のエリアを「公共交通不便地域」と定義しています。

この度、第7回目の勉強会を開催しましたので、その内容をご報告いたします。

日時：令和元年12月17日（火）  
14時00分～15時30分  
場所：砧まちづくりセンター内活動フロア  
参加者：24名

（第1部） これまでの検討経過について

昨年度から現在までの検討経過について報告しました。

図-1の運行ルート（案）及び運行概要（案）について、運行にあたっての課題と、課題への対応案（表-1）を説明しました。

運行概要（案）

運行車両	ワゴン車（10人乗り）
運行時間帯	9時台～17時台
運行間隔	約36分
運賃	220円程度

※停留所候補地は、あくまで現段階での素案であり地権者等の合意を得たものではありません。

図-1 昨年度までの運行ルート（案）（右）と運行概要（案）（左）

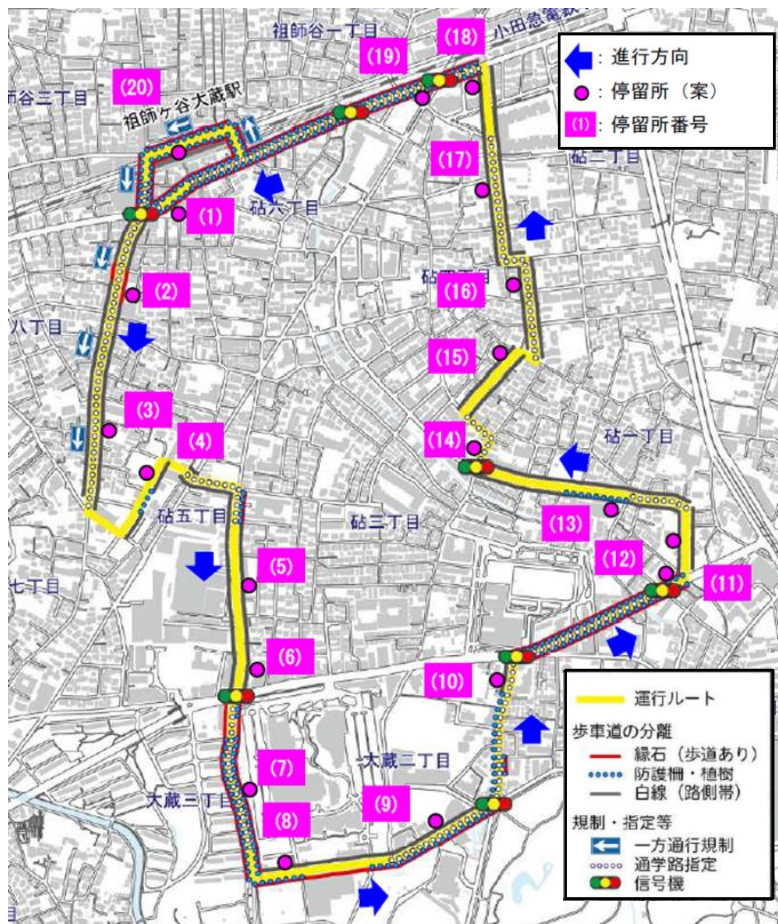


表-1 運行に関する課題

主な課題	対応案（抜粋）
運行ルート上の通学路について、十分な安全対策が必要	下校中の児童に配慮し、下校時間帯（14時30分～16時）は運行休止にする
持続性のある運行とするための収支改善	運行日数の精査

## ○第1部での主なご意見と回答

Q：高齢者は午後に買い物や病院等へ外出すると思うのだが、外出しやすい時間（14時30分～16時）にバスがないと不便ではないか。

A：ご指摘の通り、運行休止時間中も需要はあると考えていますが、昨今の路線バスの事故等を踏まえ、交通管理者からこれまで以上に通学路の安全対策を求められている現状があります。昨年度から協議を続けてまいりましたが、運行するための現実的な対応案として、下校時間帯の運休という方法で進めていきたいと考えています。

Q：通学路の安全対策として、ガードレールを設置することは出来ないのか。

A：道路幅員が狭く、ガードレールを設置できる道路状況ではないため、難しい。

## (第2部)新たな公共交通不便地域対策の方向性

砧モデル地区を含む、公共交通不便地域における対策について、現時点の区の支援の方向性をご説明しました。

### 公共交通不便地域対策の方向性について

#### 概要

今後見込まれる超高齢社会や単身高齢者の増加等を踏まえ、住み慣れた地域で自立して暮らし続けられるよう、人口特性や地理的条件などの視点から重点検討地域を設定し、公費負担を伴う新たな公共交通不便地域対策（ワゴン車等）を検討する。

#### 効果

住み慣れた地域で自立して暮らし続けられるよう、買い物等の生活支援や外出機会の確保に繋がる。

#### ポイント

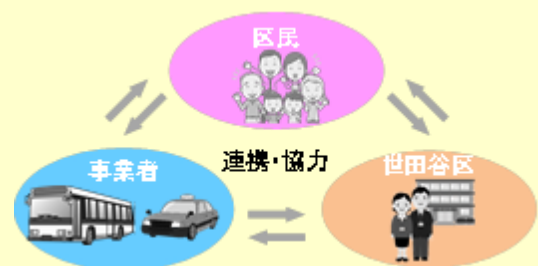
区民・交通事業者・区が協働で取り組むこととする。

地域の問題を最もよく知る地域住民の方が、公共交通の検討に主体的に取り組むことで、地域の移動ニーズに即したコミュニティ交通を作ることができる。また、自分たちが作ったコミュニティ交通の積極的な利用や利用促進活動等を行い、守り育てあげていくことが、地域の活性化にも繋がっていく。

#### 区の支援方法（概要）

一定の条件を満たした場合に、実証運行・本格運行を実施し、それにかかる運行経費の補助を検討する。

- ①地元協議会等が設立されること。
- ②実証運行移行及び継続条件：需要予測アンケート結果を踏まえた運行経費の収支率が30%以上であること。
- ③本格運行移行条件及び継続条件：運行経費の収支率が40%以上であり、かつ運行欠損額が750万円以内であること。



三者の関係のイメージ図

### (第3部) 今後の取り組みについて

第2部「新たな公共交通不便地域対策の方向性」を踏まえ、砦地区におけるコミュニティ交通の検討段階を確認しました。砦地区は、図-2の中で、「Step4」の段階にいます。

今後は、最新の運行計画について需要予測アンケートにより、実証運行の移行条件である収支率を判断し、実証運行に向けた取組みを進めていくことを想定しています。



#### ○第2部、第3部での主なご意見と回答

Q：砦地域で検討しているコミュニティ交通は、誰の利用を想定しているのか。また、想定される利用者の利便性に叶っているのか。

A：メインターゲットは高齢者の方と考えていますが、公共交通として、基本的にはどなたにもご利用いただける形態を想定しています。今後、地域の方々の意向を確認し、需要にマッチした移動サービスを考えていきたいと思っています。

Q：実証運行や本格運行へ移行するための収支率等の条件は、どのように決めたのか。もう少し基準を下げる代わりに、運賃収入以外の、企業や商店街からの協力による収入を得ることも考えられると良いと思う。

A：基準は、他の自治体のワゴン車を用いたコミュニティ交通の運行実績等を参考にしており、地域の皆様から応援していただく形で、企業や個人のサポーター会員等の運賃外収入も、一定程度見込んで設定しています。まずはご利用いただくことが大切ですが、乗車以外の方法でも応援していただき、地域で育てていくコミュニティ交通が望ましいと考えています。

Q：大蔵第二運動場や温水プールなどを利用しているが、コミュニティ交通が運行したら、たくさんの方が運動できるようになり、多くのお年寄りが健康になると思う。

A：ご指摘の施設の近くを通る運行ルート（案）になっており、想定するバス停が予定通り設置できれば、施設を利用しやすくなるものと考えています。

# ワーキングをしていただきました！

参加者の皆様に「①砧地区で運行を目指しているコミュニティ交通について、期待していること」、「②地域で盛り上げていくための工夫」について、考えていただきました。主なご意見は以下の通りです。

## ①砧地区で運行を目指しているコミュニティ交通について、期待していることは？

- コミュニティ交通に乗って地域で買い物
- 砧図書館や日常の買い物など、行きたい場所がたくさんある
- 最近外出が少なくなっている高齢の母がとても喜ぶと思う
- 老人だけでなく、誰でも乗れるバスにして欲しい
- どこへ行くにも自分の足で歩ける幸せを感じており、足の悪い方などのために、バスが運行して欲しい
- 高齢者対策だけでなく、子どもの通院対応にも役立って欲しい
- 高齢者も子どももコミュニティバスで生活が少しでも楽になって欲しい

## ②地域で盛り上げていくための工夫は？

- 「くるりんバス」のようなネーミングを考える
- 話題にして、今まで無関心な方々にもこの取り組みに目を向けてもらえるように努力する
- 回数券を買った方に参加店が考えた優待クーポンを発行する
- ワゴン車に試験運行のステッカーを付けて、乗客を乗せた状態でコース案を走ってみる

## その他のご意見

- ワゴン車はシックでいて目立つようにして欲しい
- 安全対策として、車両からメロディーを流す
- 難しい課題が多くあるが、課題を解決してコミュニティ交通が運行したら便利であり、1つ1つ課題をクリアしていきたいと思う

## (勉強会後のアンケート)

勉強会参加者の方にアンケートを記入していただきました。主なご意見は以下の通りです。

- 初めは小型バスを希望していたが、ワゴン車を走らせる希望が出てきた。
- 地元のみinnで考えていきたいと思う。まずは、多くの人に知って欲しい。
- 今後も本日のように多勢の方々にお集まりいただき、意見交換し、是非砧にワゴン車を走らせることが出来るように願っている。

皆様の貴重なご意見ありがとうございました。次回もぜひ勉強会にご参加ください。

お問い合わせ先

世田谷区道路・交通政策部交通政策課

〒154-0017 世田谷区世田谷4-24-1 (3階)

電話：03-5432-2544 ファクシミリ：03-5432-3067

世田谷区ホームページ>住まい・街づくり・環境>交通>交通に関する計画・方針等>公共交通不便地域対策について